

取組と目標に対する自己評価シート（フェイスシート）

| | |
|--|----------|
| タイトル | 通所型サービスC |
| 現状と課題 | |
| <p>生活機能が低下して要介護状態になるおそれが高い高齢者に対し、専門職が短期集中的にケアすることで身体及び生活機能の向上を目的とした通所型サービスCを平成29年2月から開始した。</p> <p>さらに、事業終了後も引き続き日常生活の活動や社会参加への参加が維持されるよう、地域の通いの場や一般介護予防事業に結びつかせることに配慮している。</p> <p>地域ケア会議では、要支援者等が市の介護予防教室や地域活動に参加するための交通手段の確保ができないとの声が多く聞かれる。</p> <p>また、高齢者の栄養及び口腔機能に対する予防意識が低い現状が把握されている。</p> <p>独居世帯の増加、引きこもり、外部との交流拒否など、地域で埋もれている要介護予備群に対する把握が困難であるため、早期アプローチが十分にできていない現状がある。このような高齢者に対し、介護予防を生活習慣に取り組みよう促していく。</p> | |
| 第7期における具体的な取組 | |
| <p>現状把握できていない要介護等予備群に対する早期アプローチとして、認定がない状況であっても「基本チェックリスト」を実施し、通所型サービスCへ繋げるようシステム化する。</p> <p>《対象者の拡大化》</p> <p>通所型サービスCに送迎機能を持たせ実施する。《移動支援対策》</p> <p>通所型サービスCの利用促進を図るため、市内及び近隣市のケアマネジャーへ事業説明を行う。HPへ事業概要を掲示する。チラシを作成する。《普及啓発》</p> <p>地域包括支援センターと民生委員による地域の見守り訪問を実施する。</p> | |
| 目標（事業内容、指標等） | |
| <p>運動器の筋力向上・栄養指導・口腔指導を行うため専門職（理学療法士・管理栄養士・歯科衛生士・看護師）を配置し、利用者からのアセスメントを基に個別計画書を作成し、実施する。</p> <p>教室は、全20回（運動16回・栄養2回・口腔2回）を1コースとし、年間6コース（2か所×3期）実施している。</p> <p>参加者数 1コース10名定員</p> <p>評価項目 握力・片脚立位・脚伸展力・TRT・TUG・筋肉量・BMI・食事量・食事メニュー・栄養バランス・咀嚼・嚥下・清潔度・ブラッシング</p> <p>指標 初回のアセスメントを基に、利用者と専門職で個々の指標を定める。第19回目（最終日の1回前）に再アセスメントを実施し、指標に対する達成状況を評価する。</p> <p>教室終了後の生活についてケアマネジャー、事業者と利用者で話し合いを行う。また、終</p> | |

了後の利用者がどのように（介護サービス・地域活動・一般介護予防・自立）繋がったのかを把握する。

改善率が低い場合は、事業の見直し（指導内容・回数・時間等）を適宜行う。

目標の評価方法

- 時点

- 中間見直しあり

- 実績評価のみ

- 評価の方法

- 実施事業者から教室終了後に実績報告書の提出を受け、それを基に評価を実施する。

※取組及び目標が複数ある場合は、それぞれについて作成してください。